



# 広葉樹をもっと活用しよう～ひだか南地域の広葉樹販路拡大の取組～

林産試験場 利用部 資源・システムグループ 酒井明香・大崎久司・渋井宏美  
 林業試験場 森林経営部 経営グループ 大野泰之・蝦名益人

## 研究の背景・目的

トドマツ人工林内の広葉樹資源は統計資料に記載されていませんが、広葉樹原木の貴重な供給源となっています。これらの多くは“雑木パルプ”や燃料材として安価に取引されますが、日高地域では中間土場に集積された広葉樹低質材(右写真①)からの燃料チップ生産(同②)と並行し、中大径材等を選木し(同③)、“節や曲がりのある挽き板”に製材し(同④)販売する取組(同⑤)が始まっています。これらがマテリアル用途に販路拡大すれば、川上に新たな利益を還元できる可能性があります。本研究ではひだか南地域の中間土場に集められた広葉樹の樹種の出現割合と、樹皮付き板に加工した販路拡大の現状を明らかにしました。



## 研究の内容・成果

広葉樹低質材(右写真①)のうち、径級24cm上の本数割合は、2023年は15%、2024年は19%、2025年は18%となりました。樹種別材積(図1)は、イタヤカエデが最も多くなりました。北海道林業統計(日高)と比較するとヤチダモやハルニレ・センノキ等の割合が大きい傾向にあり、エゾヤマザクラやクリも出材することが明らかになりました。カンバ類ではウダイカンバが最も割合が大きい傾向でした。これら原木のうち、腐朽や割れの少ないものが樹皮付き板に加工され、日高での常設販売ほか札幌のホームセンターや催事等で販売されました。丸太を含め延べ57社と取引されました(図2)。2024年の実績で、集荷された広葉樹材の約6%をマテリアル用途に販路拡大できました。

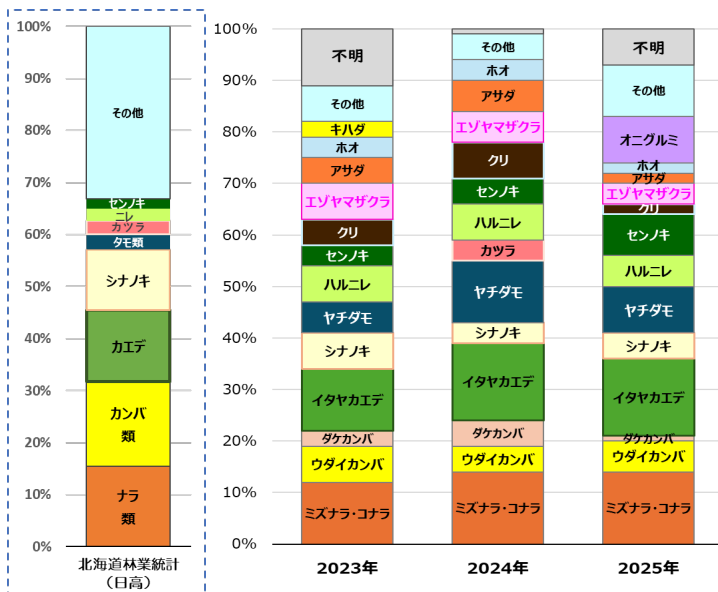


図1 広葉樹低質材(24cm上)の樹種別出材積割合

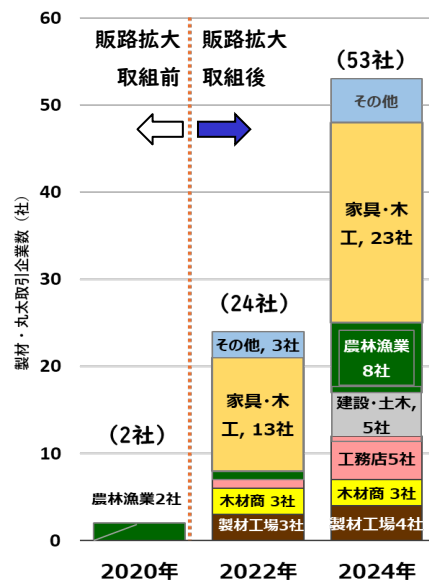


図2 製材(樹皮付き板)・丸太の取引企業数

## 今後の展開

ひだか南地域だけでなく、今後トドマツの主伐期を迎える道内各地において、トドマツ施業と並行して取り組める広葉樹低質材の活用方法として普及し、取り組みの支援を行っていきます。